

【イベント名】
第19回 ラテンアメリカテレカンファレンス

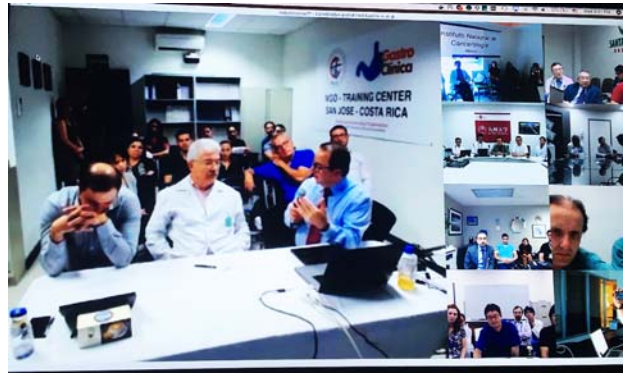
【期日】 2019.06.13

【会場】 コスタリカ ガストロクリニック (コスタリカ), アレマナ病院 (チリ), チリ大学 (チリ), コスタ・リカ大学 (コスタリカ), ボゴタ・ザビエル大学 (コロンビア), カリ・ザビエル大学 (コロンビア), メキシコ国立医学・栄養センター (メキシコ), シャープマサトラン病院 (メキシコ), フライアントニオ アルカルデ市民病院 (メキシコ), メキシコ癌研究所(INCan) (メキシコ), サンパウロ大学 (ブラジル), ブラジル癌研究所 (ブラジル), ミナスジェライス連邦大学 (ブラジル), セルジペ連邦大学(FUS) (ブラジル), ノッサ・セニョーラ・ダス・グラッサス病院 (ブラジル), サンタクルズ病院 (ブラジル), キーンズ大学 (カナダ), 大阪国際がんセンター (日本), 九州大学病院 (日本)

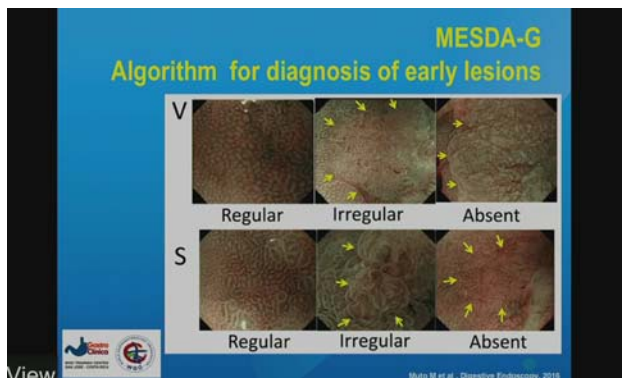
【概要】
今回のテレカンファレンスでは、胃異形成に関する日本とラテンアメリカの医師間での解釈の違いについて議論した。ラテンアメリカの病理医にとって異形成は前癌病変であるが、日本では早期胃がんと診断する。疫学上の分析に相違があることから、この件に関して意見を一致させることが必要であると考えている。日本からのDr.上堂、コスタリカからのDr. BurgosとDr. Brenesの参加に感謝する。



メキシコ癌研究所の様子。
撮影場所：メキシコ癌研究所



モニタに映し出される接続施設。
撮影場所：コスタ・リカ大学



提示されたスライド。
撮影場所：九州大学病院



チリ大学の様子。
撮影場所：チリ大学



サンパウロ大学の様子。
撮影場所：サンパウロ大学



大阪国際がんセンターの様子。
撮影場所：大阪国際がんセンター